

管理指標による環境基本計画の施策の現状と評価

《P》は環境行動計画の掲載ページをさしています。

基本目標	長期目標		短期目標 (平成22年度)	管理指標	管理指標の現状 (平成19年度実績) 【 】内は評価理由を示す	関連事業	結果の評価	
	うるおいと安らぎの 和のまちづくり ——— 自然環境の保全等 ——— 多摩	みどりの保全・創出 《P52》		●将来にわたって持続性の高い緑地面積率を約37%以上確保することをめざします。	●将来にわたって持続性の高い緑地面積率	・34.20% (18,550.59㎡、0.4%の増加) 【平成19年度目標1.8haを上回った。】	①公園緑地の新規開設 ②緑化基金による公園用地の取得 ③緑化協定による緑化の推進 ④宅地開発指導要綱による民有地の緑化の推進	
水辺環境の保全・回復 《P53》		●河川の水質汚濁に係る環境基準(河川類型Bを適用)を下回ることをめざします。 ・BOD(生物化学的酸素要求量)3mg/L以下	●多摩川・大栗川・乞田川のBOD濃度が環境基準値を下回った割合(環境基準値を下回った測定回数)/(測定回数)	・BOD環境基準適合率 :各測定点100% 【H.18各地点100%】	①大栗川・乞田川、水路などの親しみのもてる水辺空間の整備 ②多摩川・大栗川合流点付近の水生生物を定点観測していく ③観察、体験、工作、遊びを取り入れた水辺観察会等の開催	目標達成		
		●大栗川・乞田川の河川水量の増量をめざします。	●大栗川・乞田川の河川流量	・大栗川(合流点前)0.545(m ³ /s) ・乞田川(行幸橋)0.074(m ³ /s) 流水量の増量 【H.18 大栗川0.902(m ³ /s) 乞田川0.147(m ³ /s)】				
		●水辺の自然度の向上をめざします。	●河川に生息する魚類の種類・個体数	・大栗川(合流点前) 種類9 個体数110 【H18種類8 個体数85】 ・乞田川(行幸橋) 種類4 個体数82 【H18種類1 個体数3】			参 考	
生物多様性の確保		●将来にわたって持続性の高い緑地面積率を約37%以上確保します。	●将来にわたって持続性の高い緑地面積率	みどりの保全・創出と同様				
		●河川の水質汚濁に係る環境基準(河川類型B類型を適用)を下回ることをめざします。 ・BOD(生物化学的酸素要求量)3mg/L以下	●多摩川・大栗川・乞田川のBOD濃度が環境基準値を下回った割合(環境基準値を下回った測定回数)/(測定回数)	水辺環境の保全・回復と同様				
		●大栗川・乞田川の河川水量の増量をめざします。	●大栗川・乞田川の河川流量					

基本目標	長期目標	短期目標 (平成22年度)	管理指標	管理指標の現状 (平成19年度実績) 【 】内は評価理由を示す	関連事業	結果の評価
うるおいと安らぎの和のまちづくり 都市環境の保全等 多摩		●水辺の自然度の向上をめざします。	●定点調査による生物の種類数・個体数			
	公園緑地の確保 《P54》	●1人当たりの都市公園面積13㎡(広域公園を含まない)以上の確保をめざします。	●1人当たりの都市公園面積(広域公園を含まない)	・1人当たりの都市公園面積13.54㎡/人 都市公園面積1,993,406.91㎡(広域公園を含まない) 【22年度目標値13㎡/人】	①市民参加の公園・緑地数の増加 ②ニュータウン地域以外の地域での区画整理事業や開発による緑地の確保	目標達成
		●アダプトの数を増やします。	●アダプト団体の数(延べ)	・147/205公園 【H.18 136/201公園】		
	景観の保全・創出 《P55》	●みどりと都市とが調和した景観を保全します	●定点からの景観の状況(写真撮影)	・変化なし 【マンション建設、開発等はあるが相対的には変化なし】	①地区のまちづくりルールの策定支援 ②街づくり講座、街づくりコンサルタントの派遣、地区街づくり助成金の活用	→
		●市民参加によるまちづくり(景観づくり)を進めます。	●地区まちづくり計画を策定している地区の数	・地区計画決定地区数 27地区 ・建築協定締結地区数 17地区 【H.18 地区計画 27: 建築協定16】		
歴史・文化の保全・継承 《P56》	●歴史文化継承事業の実施回数及び参加人数を増やします。	●バルテノン多摩((財)文化振興財団)の主催する歴史文化継承事業の実施数・参加者数	・学習講座等実施数20事業 1,809人 ・展示会7事業 69,903人 【H.18 学習講座実施数15事業 2,220人 展示会 7事業 72,669人】	①炭焼き体験事業や足ナカ作り体験会の実施 ②長年市内に在住されている方を講師とする講演会・学習会の開催	→	
まちの美化 《P57》	●ごみのポイ捨て、捨て看板の量や、路上駐車・放置自転車数の削減をめざします。	●捨て看板(屋外広告物違反物)の回収量	・2,341件 【H.18 7,147件】	①放置自転車等の返還率を上げ、所有者に放置禁止の啓発を行い、再発防止を図る。	参 考	

基本目標	長期目標	短期目標 (平成22年度)	管理指標	管理指標の現状 (平成19年度実績) 【 】内は評価理由を示す	関連事業	結果の評価
			<ul style="list-style-type: none"> ●瞬間路上駐車(違法駐車)台数、瞬間放置自転車等の台数 22年度目標 ・違法駐車台数 500台 ・瞬間放置自転車等の台数 700台 	<ul style="list-style-type: none"> ・瞬間路上駐車台数 483台 ・放置自転車数 349台 【H.18 瞬間路上駐車 326台 放置自転車 562台】 	<ul style="list-style-type: none"> ②駐輪場・駐車場への利用促進の街頭キャンペーン等啓発活動を実施する。 	→
自然の循環の中で人が暮らせるまち多摩	公害の防止	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての測定地点・時期において、大気汚染物質(SO₂、NO₂、SPM、Ox、CO)濃度がすべて大気汚染に係る環境基準値を下回ることをめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大気汚染物質(SO₂、NO₂、SPM、Ox、CO)濃度が環境基準値を下回った割合(環境基準値を下回った地点数) / (全測定地点数) 	<ul style="list-style-type: none"> ・SO₂、CO、NO₂、SPM:環境基準達成(5/5) ・Ox:全測定地点で未達成(0/5) 【昨年度に続き全地点でSO₂、CO、NO₂、SPMが環境基準を達成しました。】 	<ul style="list-style-type: none"> ①交通安全市民のつどい、春・秋の交通安全運動、街頭活動、たま広報等のあらゆる機会をとらえ普及、啓発活動を行う。 ②公用車の使用抑制(水曜日の使用10%削減) ③職員のノーカーデーの推進を図る。 	→
		<ul style="list-style-type: none"> ●すべての測定地点・時期において、水質汚濁に係る環境基準(河川類型Bを適用)の達成をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●BOD濃度、pH、大腸菌群数が環境基準値を下回った割合(環境基準値を下回った地点数) / (全測定地点数) 	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川(調査1地点) pH、BOD:環境基準達成 ・大栗川(調査3地点)、 BOD、SS、大腸菌群数:環境基準達成 pH:環境基準未達成地点あり ・乞田川(調査2地点) BOD、SS、Do:環境基準達成 pH、大腸菌群数:環境基準未達成地点あり 【昨年度に比べ大栗川の大腸菌群数に改善が見られました。】 	<ul style="list-style-type: none"> ①水質異常事故発生時に原因究明を行い、原因者への改善指導を行う。 ②開発に伴う事前協議等における啓発及び市内公害パトロールの強化を行う。 	→
		<ul style="list-style-type: none"> ●すべての測定地点・時期において、騒音に係る環境基準の達成をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道路騒音レベルが環境基準値を下回った日数の割合(環境基準値を下回った日数) / (全測定日数) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各測定地点での昼間は全て環境基準値内であったが、夜間において2地点を除き環境基準値を超えていました。 		→
		<ul style="list-style-type: none"> ●ダイオキシン類濃度を把握します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境中のダイオキシン類濃度把握地点数 	<ul style="list-style-type: none"> ・大気:1地点(市役所) 【H.18年度に引き続き、ダイオキシン類濃度は環境基準以内でした。】 	<ul style="list-style-type: none"> ①有害化学物質の情報の収集とともに国や都と連携した情報提供システムを推進する。 ②既存資料のデータベース化を図る。 	目標達成

基本目標	長期目標	短期目標 (平成22年度)	管理指標	管理指標の現状 (平成19年度実績) 【 】内は評価理由を示す	関連事業	結果の評価	
		●ごみの焼却量を平成16年度1年間の焼却量から20%削減するとともに、埋立処分量ゼロをめざします。	●ごみの焼却量・埋立処分量 22年度目標 33,647 t	・ごみ焼却量 39,547 t ・ごみ埋立処分量 210 t 【H.18 ごみ焼却量38,792 t ごみ埋立処分量913 t】	③市民・事業者に対する有害化学物質情報の提供システムの推進。	→	
		●化学物質に関する情報提供システムの確立をめざします。	●化学物質に関する情報提供システム確立の進捗状況	・データの更新を図った。 【H.18年度に2手法を実施： 紙と電子による情報提供】		→	
	その他の公害の防止	●アスベスト等、その他の公害の防止に関する啓発活動を進めます。	●その他の公害の防止に関する啓発活動の実施数	・都のホームページ（都内の化学物質の使用状況）とリンクし、情報提供を行っています。		→	
自然の循環の中で人が暮らせるまち多摩 — 環のまちづくり —	ごみの減量、資源の有効利用 ◀P62▶	●家庭系ごみの燃やせるごみと燃やせないごみの排出量を平成16年度1年間の排出量から20%以上の削減をします。	●ごみ排出量（家庭系+事業系） 22年度目標 41,665 t ●家庭系ごみ排出量（家庭系、燃やせるごみ、燃やせないごみ、粗大ごみ、資源） 22年度目標33,054 t ●家庭系ごみの燃やせるごみと燃やせないごみの排出量 22年度目標22,643t	・ごみ排出量 47,852 t ・家庭系ごみ排出量 36,331 t 1人1日平均 675.9g ・家庭系ごみの燃やせるごみと燃やせないごみの排出量： 27,988t 【H.18年度実績 46,970 t】 家庭系 1人1日平均ごみ排出量 681.0g/人・日	①再生利用の促進 ・様々な再生利用ルートを確保するための支援等 ・集団回収による資源化量 ・オフィス町内会による資源化 ②エコセメント化による埋立量の削減 ③多摩市グリーン購入推進方針による市役所の再生品利用の推進。	→	
		●再生利用率を約32.4%に増加します。	●再生利用率〔総再生利用量/〔ごみ総発生量（総再生利用量含む）〕〕	・25.6% 【H.18年度実績 25.4%】		→	
		●ごみの埋立処分量をゼロに近づけます。	●ごみの埋立処分量	・210 t 【H.18年度913 t】		→	
	エネルギーの有効利用 ◀P65▶	●電力消費量を平成14年度レベルから4.8%削減することをめざします。	●電力消費量（22年度目標850,537 kWh）	●多摩市リサイクル協力店の数（エコショップに変更）	・44店舗 【H.18年度 22店舗】	①省エネルギー行動などに関する普及・啓発事業の実施 ・エコライフ普及啓発誌を使用した市民への省エネ啓発活動 ②住宅リフォーム補助金による太陽光発電の補助	→
				●電力消費量を平成14年度レベルから4.8%削減することをめざします。	●電力消費量（22年度目標850,537 kWh）		・910,788 kWh 【H.18 871,248 kWhを4.5%上回った。】 ・家庭系1人当り電力消費量2,010kWh/人・年 【H.18年度1,952KWh/人・年】

基本目標	長期目標	短期目標 (平成22年度)	管理指標	管理指標の現状 (平成19年度実績) 【 】内は評価理由を示す	関連事業	結果の評価
自然の循環の中で人が暮らせるまち多摩 — 環境のまちづくり —		●都市ガス消費量を平成14年度レベルから4.8%削減することをめざします。	●都市ガス消費量(22年度目標 40,014千m ³)	・44,702千m ³ 【H.18 42,926千m ³ を4.1%上回った。】 ・家庭系1人当たり都市ガス消費量160m ³ /人・年 【H.18年度 156m ³ /人・年】		
	健全な水循環の確保 ◀P68▶	●1人当たりの水使用量を10%削減することをめざします。	●市民1人当たりの水使用量 ・1人当たりの水使用量280L	・305L/人・日 【H.18年度301L/人・日】	①歩道の舗装を全体的に打換える場合や歩道の新設する場合に現場の設置状況に応じて可能な限り透水性舗装を実施 ②各戸雨水貯留浸透施設助成事業などを推進し、雨水の地下浸透を図る。	
		●雨水浸透・貯留能力の向上をめざします。	●雨水浸透施設・貯留施設設置数 22年度目標 ・雨水浸透施設 90件 ・雨水簡易貯留施設 170件	・雨水浸透施設(累計)67件 ・雨水簡易貯留施設(累計)160件 【H.18 雨水浸透施設(累計)66件 雨水簡易貯留層(累計)149件】		
		●湧水量の増量をめざします。	●湧水量	・大谷戸公園1.0L/s ・寺の入り0.24L/s 【H.18大谷戸公園1.0L/s : 寺の入り0.22L/s 測定日前の天候に左右されます。】		
	地球温暖化の防止 ◀P69▶	●京都議定書目標を達成するため、温室効果ガスである二酸化炭素排出量を平成14年度(2002年)レベルから4.8%削減することをめざす。	●二酸化炭素排出量(電力・都市ガス消費・プラスチックごみ焼却を対象) 22年度目標419,274t-CO2	・448,037t-CO2(約9%増加) 【H.18年度411,582t-CO2】		①市役所を事業所の一つとして、多摩市地球温暖化対策実行計画を実践し、温室効果ガスの削減に取り組むとともに、この結果の公表等により市民・事業者への啓発を行う。
		オゾン層の保護	●家電リサイクル法に基づくフロン封入製品(冷蔵庫、エアコン)の回収を定着させ、不法投棄処理件数(台数)0台をめざします。	●家電リサイクル法に基づくフロン封入製品(冷蔵庫、エアコン)の不法投棄処理件数(台数)	・17台 【H.18年度31台】	

基本目標	長期目標		短期目標 (平成22年度)	管理指標	管理指標の現状 (平成19年度実績) 【 】内は評価理由を示す	関連事業	結果の評価
	酸性雨の防止		●大気汚染物質（二酸化いおう、二酸化窒素）濃度が大気汚染に係る環境基準値を下回ることをめざします。	●大気汚染物質（二酸化いおう、二酸化窒素）濃度が環境基準値を下回った割合（環境基準値を下回った地点数）／（全測定地点数）	・二酸化いおう、二酸化窒素の環境基準達成率 100% 【H.18年度 達成率 100%】		目標達成
				●愛宕測定局における酸性雨の測定結果	・pH4.51（平成17年度） 【過去10年間平均 pH 4.57】		→
	森林の保全	●将来にわたって持続性の高い緑地面積率を約37%以上確保します。 ●再生利用率を約32.4%に増加します。	●将来にわたって持続性の高い緑地面積率 ●再生利用率〔総再生利用量／〔ごみ総発生量（総再生利用量含む）〕〕 ●多摩市リサイクル協力店の数			再掲のため省略	

基本目標	長期目標	短期目標 (平成22年度)	管理指標	管理指標の現状 (平成19年度実績) 【 】内は評価理由を示す	関連事業	結果の評価	
みんなが身近な暮らしのなかで環境について考え、行動するまち多摩	人づくり	●学校における環境教育の時間、特に体験学習の時間を増やします。 ◀P69▶	●小中学校における項目別環境教育の取組校数の割合(取組を実施した小中学校数/全小中学校数)	・何らかの活動を行っている学校数 31/31 【H.18 31/31】	①環境教育への取り組みを増やす。	→	
		●環境学習の場・機会や参加人数を増やします。 ◀P70▶	●市及びパルテノン多摩((財)多摩市文化振興財団)が主催する環境学習事業の実施数、参加者数		①多摩市身のまわりの環境地図作品展の実施 ②子どもエコクラブ活動の推進	再掲のため省略	
	パートナーシップづくり◀P71▶	●パートナーシップ形成のためのベースをつくります。	●指導者・多摩市生涯学習市民バンクへの環境関連人材の登録数	・多摩市生涯学習市民バンク登録数2人【H18 6人】	①市民・事業者と共同した環境学習会を開催するなど、市民・事業者との協働を進める。 ②多摩市内で見つけた動植物情報の公開	↘	
			●「多摩市民環境会議」の活動状況	・新たな取組みを行うなど、活動も広がりつつあります。		→	
	フォローアップ体制づくり	環境情報の収集・公開体制の確立◀P71▶	●環境に関する情報収集量・公開の方法を増やします。	●図書館行政資料コーナーにおける環境に関する情報資料数	・681冊 【H.18 490冊】	①多摩市公式ホームページの充実 ②わかり易い情報の提供	↗
			●多摩市環境ホームページへのアクセス件数	●多摩市環境ホームページへのアクセス件数	・一部公式ホームページで開設しているが、独立した環境ホームページは未開設		未設置
		●市民参加による市の環境マネジメントシステムの確立・運用を目指します。	●多摩市環境審議会における本計画の目標の達成状況や市の環境に係る施策の点検・評価、見直し・改善の実施の有無などの確認状況	・環境マネジメントシステムの確立	①環境部の3審議会の議事録を多摩市公式ホームページに掲載する。 ②その他審議会の議事録を多摩市公式ホームページに掲載する。	↗	